

鹿野観光交流拠点施設整備 第1回住民説明会について

日時： 令和5年3月15日（水）

【第1部】 14：30～15：50 【第2部】 18：30～19：35

場所： コアプラザかの2階大研修室

参加者： 【第1部】 32名 【第2部】 21名 **合計53名**

参加した皆さまからの質問、意見をまとめました。

質問、意見等	市の回答
地域にお金が落ちる仕組みについて方向性や案があれば紹介して欲しい。	観光交流拠点は、鹿野地域の色々な情報が集まり紹介をする起点としたい。拠点に来てもらい2次交通などを活用し周遊を促す。拠点で大きな商売をするのではなく鹿野周辺のお店等を周遊し利用してもらい地域経済が回れば良いと考えている。
鹿野は、人口減少、高齢化による地域の衰退など不安を抱えている。関係人口や交流人口、地域にお金が落ちる仕組み、誰がどのように進めるか、この3点について目標を明確にして欲しい。現在鹿野の観光人口は年間で何人か。	観光動態調査では、令和2年54,537人、令和3年64,472人でコロナ禍で1万人持ち直している。ここ10年で平成28年80,755人がピーク。観光交流課としては、まずは平成28年の水準に戻したい。
鹿野は高齢化が進んでいる。鹿野はこの家庭も野菜を作っており、朝市などで野菜を販売し、年寄りが元気で生きていけるような策を加えて欲しい。	参考にさせていただく。
資料5ページにある鹿野ならではの？大規模でない建物のとは？また鹿野の課題、問題点について市の考えは？	鹿野ならではの、自然や植物、歴史文化のほか、観光振興プランに広く掲載されている。鹿野にしかないもの。建物は周辺の景観になじむ地域に相応しいものとしたいが具体的な面積は決まっておらず、皆さんと考えていきたい。鹿野には色んな地域資源があるが、訪問を促すアナウンスが不足していると捉えている。
若い人はネットで情報を得るので動画配信サイト等を活用して欲しい。石船温泉や漢陽寺に他の観光地にあるような立看板を設置したら良い。	市では観光施設に二次元コード付きの看板を設置しており、スマートフォンをかざすと特設サイトで詳細が見ることができる。鹿野に15箇所設置しているが、このようなご意見があるということは一層PRを進める必要がある。
二次元コード看板は、そこに行ってみるのではなく、コアプラザかの等に全部掲示すべきである。	PRの方法を考える。
文化ホールを兼ねた観光交流施設を希望する。意見を聞くだけでなく検討して欲しい。	この場ですぐ返答という訳にはいかない。
観光交流拠点ができることで鹿野全体を潤し、鹿野へ住もうとなれば良いがその手法は考えているか。	観光の視点では、観光交流拠点を起点に飲食店等含め色々な所へ周遊していただくこと。市では中山間地域への移住の施策として補助金や空き家の改修等の支援を進めているが、今後新しい手法も考えていかなければならない。
観光交流拠点で何を情報として伝えるのかその内容をみんなで考える必要がある。	発信する内容は、地域の方と一緒に共同作業して情報をいただきたい。
二次元コード看板ができればボランティアガイドは必要なくなるのではと危惧している。	多くの観光客が来れば、鹿野を知っているボランティアガイドの方の力は当然必要である。話も聞く。
弾正系桜の開花にあわせ桜カフェを開催している。観光交流拠点に一年を通じてカフェコーナーができればこれまでやってきた甲斐があったと思う。	これまで地域の方が取り組んだこと、今後もやりたいことは市は応援する立場にある。地域にそういった考えがあれば、今から検討させていただく。
ボランティアガイドをしているが、ボランティアガイドの服装など実費である。これらの支援もお願いしたい。	ボランティアガイドは市内の色々な地区におられる。そういったご意見があったと持ち帰らせていただく。

質問、意見等	市の回答
住民と協議しながら、意見を聞きながらという方法は？	今後も説明会を行う予定としている。また総合支所に意見を持ってきていただければ、住民の方の意見を必ず伝える。
観光交流拠点は鹿野の住民だけのものではない。令和10年の供用開始までに周南市を巻き込むようなイベントを開催すれば良い。	参考にさせていただく。
できるだけ前倒しして早く供用開始して欲しい。	スケジュールは標準的なもの。参考にさせていただく。
他地域との差別化についてどう考えているか？他県からくる人達の意識の調査などは？	観光振興プランにも多くの資源が記載されている。拠点の情報を集めてというのは、例えばホテルがどの川に行ったら見れますなど鹿野でないとできないことを紹介する発信基地になると良い。他県からの観光客の数字はキャンプ場での来客数を把握している。来年度は今までにない調査ができればと考えている。
市民が鹿野の観光に関するボトムアップを図らないといけない。意見交換の場を提供して欲しい。	作業を進める中で報告し、いつでも意見交換をさせていただく。
鹿野の観光資源は弱く、自立できない。観光資源のボトムアップを図っていかなくてはならず、拠点は課題を解決する施設であるべきと考えるのがいがか。	観光交流拠点は課題解決の為に必要な整備であるが、どのような形でボトムアップしていくかは議論途中である。鹿野の資源を拠点に情報収集させることで鹿野の資源を掘り起こせる。新しい鹿野の特産品など総合支所で検討しており、令和10年に向かって資源の磨き上げをしていきたい。
何を解決すれば鹿野が良くなるか、何が一番大切か。	鹿野に来るとき、キャンプや山野草のエキを見に来て目的として終わっている。それを線にしたい。それを結び付けるのが拠点であり最終的には面になっていけば良い。
観光の質を上げることは？	2次交通ではEVなど案が出ていて、2次交通を使って回遊の仕組みを作ることが観光の質を上げることとなる。
若者向けのアクティビティは検討したのか。	若者向けというよりファミリー層に対して、キッズスペース、アスレチック的なものを外に作る、もしくは室内に作るなど意見が出た。子供から大人まで遊ぶことができる提案は頂いた。
子育て世代向けの施策が良いと考えており、交流人口は必然的に増える。交流人口が増えれば観光資源がボトムアップしていく気がするが。	鹿野の自然は遊ぶ所が沢山ある。ホテル、流れ星鑑賞なども一つのアクティビティであり、施設を作らなくても家族で遊べるものである。それが鹿野の良さで鹿野ならではのものではないか。
鹿野の産業との連携で一緒に作っていく発想は市にあるか。	居心地の良さを追求すると特産品やお土産が必要かもしれない。連携して農業生産団体であれば田畑の維持管理、食生活のグループであるとならば行事食や地域の食の文化など付加価値的なものが生まれる。市としても考えたい。
鹿野総合体育館で大会があるが、鹿野で宿泊ができない。空家を改修して宿泊施設とし、観光拠点を受付にする案があるがお金がかかる。観光拠点ができるところにも宿泊や食べる所を議論しなければならない。中学校の空教室など今ある施設の活用も課題の一つである。	企業はアイデアを持っているので、これらの運営を連携して情報交換しながら進めるべき。鹿野は農家民泊体験可能な家庭が30以上ある。地域の体験型教育旅行の推進委員会を通じて一般家庭で受入できる。単価も決まってお金も落ちる。民泊推進、地域のおもてなしにもなる。これが観光資源のボトムアップになればと思う。
観光客数など具体的な数字で示して、なぜ人口が減るのかを調査して説明会に出して欲しい。	令和3年長野山、漢陽寺など6つの施設で約65,000人が来られ、令和2年には約55,000人、令和3年になって回復傾向である。どこまで数値化できるかはありますが、今回は具体的な数字を入れて説明したい。
将来的には拠点でカフェをやりたい。鹿野の交流人口を増やすために大手コーヒーチェーン店を呼び込む意見があるが意見を聞きたい。	カフェ、飲食、物販など地域の方がしっかりと知恵を出し合い構想を持っているのであれば、市も色々な協議をもって話を進めたい。市が直営でやるのではなく、新しく団体を立ち上げていただき、地域が特産品販売や商売を考えていただけたらと考える。大手コーヒーチェーン店は人を呼び込むノウハウを持っており参考になる。
拠点だけでなく鹿野全体の景観修正を取り組んで欲しい。	観光交流拠点だけを整備するだけでなく一帯を含めた景観を十分配慮したい。